

赤★☆☆★星

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262
(関西支社)大阪市北区菅栄町10-10 岸本ビル/TEL 06-6357-6975
発行人 南 安明 (振替) 00120-2-1512 蜂起社・南安明

月刊

10月 2003年 No.29 (通巻371号)

本号300円 (毎月1日発行)

年間購読料 1部3000円 (送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

紙面案内

- ① 国境を越えた連帯行動を!
- ② パレスチナに連帯を (IV)
新しい左翼の思想と実践
- ③ 「持たざる者」の国際連帯行動
- ④ 反戦運動/反弾圧/サバティスタ

お知らせ 次号は11月15日発行です。

パレスチナ・韓国—全世界の民衆の 国境を越えた連帯行動を!



▲10.11「持たざる者」の国際連帯行動
(報告記事は3面に)

▶9・27ロンドンでイラク占領に反対し
パレスチナに連帯してデモ行進する人々
(ロイター)



帝国主義のグローバリズムと戦争に 反対するインターナショナルな行動へ!

自衛隊のイラク派兵阻止!
米英軍は占領を止め
直ちに撤退せよ!

世界を揺るがす
イラクとパレス
チナ—中東情勢

イラクとパレスチナを巡る中東情勢が世界を揺るがしている。イラクでは、フセイン政権が崩壊し、米軍主導による占領政策が始まってから半年がたつが、占領軍に対する抵抗がまだ続き米兵の戦死者も後を絶たない。想定を上回る兵力と資金の負担は、超大国の米国にとっても財政悪化をより一層深刻なものにする重荷になっている。イラク戦争を正当化する名分であった「大量破壊兵器の保有による脅威」も、明らかになったのは「大量破壊兵器」ではなく、米フセインと英フセインの両政権による戦争にかり立てるためのまっかな嘘(デマゴギー)であったことだ。

イラクの占領政策とパレスチナの平和案(ロードマップ)の失敗と誤算が明白になり中東情勢に暗雲が垂れこめるにつれて、フセインの来年の大統領再選戦路にもかげりが見え始めてきた。イラク開戦直後には70%を超えていた支持率もその後は下がりはかりで就任以来最低の50%になり、イラク戦争に際しても「戦争の意味がなかった」との回答が53%に上り(CBSテレビとニューヨーク・タイムズ紙の共同調査)、「米国は帝国主義国家になった」と感じている人が59%にも達していることが米世論調査機関の発表で明らかになった。フセイン政権に対する不信感が広がっていることを反映した結果といえる。

戦争と占領に反対する国際行動

パレスチナの第2次インティファダ(民衆蜂起)3周年に合わせて、帝国主義の戦争と占領に反対する

国際統一行動として、米国(国際ANSWER)と英国(戦争阻止連合)の反戦団体が中心になって、9月27日、米国、欧州、アジアの各都市でイラク占領に反対する集会や抗議デモなどが繰り広げられた。約2万人が参加した英のロンドンでは、首相ブレアのつり「Blair」をもじって「Blair」(嘘つきブレア)というプラカードや「戦争も嘘じゃない」などと書かれた横断幕を掲げたり、「パレスチナに自由を!」と訴えるプラカードを手には大規模なデモが展開された。ソウルでは、韓国軍のイラク派兵に反対する大規模な抗議行動があった。我々は、午前中、イスラエルとアメリカの両大使館前での抗議行動を反戦闘争実行委とともに取り組み、午後はワールド・ピース・パレードに参加。夜は「パレスチナ連帯デー」映画と講演の集い(主催・JAPAC)が200名を超える参加者によって開催された。今こそ、闘う労働者・人民は、帝国主義のグローバリズムと戦争に反対し、パレスチナ・韓国—全世界の民衆のラディカルでインターナショナルな国境を越えた連帯行動に、持たざる者、排除された人々とともに立ち上がる!

(2面へ続く)

ブッシュ来日弾劾・自衛隊出兵阻止！

インティファダ3カ年 イスラエル大使館へ抗議

9月27日、パレスチナ民衆の第2次インティファダ3カ年にあたるこの日、「米英のイラク占領反対」「パレスチナに自由を」「パレスチナに自由を」を掲げた国際反戦同時行動が呼びかけられた。反戦闘争は、この呼びかけに連帯しイスラエル大使館とアメリカ大使館への抗議・申し入れ行動を取り組んだ。

イスラエル大使館前に結集した反戦闘争者は、抗議文を受け取るよう要求したが、警備の警官は何と「大使館は留守だ」と突っ張った。他の大使館では考えられない不誠実な対応に抗議し、規制をはねのけ門前で弾劾のシュプレヒコールを叩きつける。続いて、「イスラエル軍はパレスチナ民衆の殺りくど住居の破壊を止めて」「占領地から即時撤退せよ」「分断壁の建設を即時中止・撤去せよ」「アラファト議長への『追放』決定を撤回せよ」を要求する申し入れ文を読み上げ、現場における抗議集会を貫徹した。

その後、アメリカ前に登場し、「ブッシュはアジア歴訪を中止せよ」「米軍はイラクから撤退せよ」などを掲げた抗議文を渡し、門前で抗議集会、怒りのシュプレヒコールを叩きつけた。午後は、芝公園で行われた9・27ワールド・ピースパレードに合流して情

実、我々はパレスチナの旗を掲げてパレードに参加した。夕方からは、日本パレスチナプロジェクトセンター主催の「パレスチナ連

帯デー・映画と講演の集い」に参加。200名を超える参加者で熱気あふれる中で「ジェン・ジェン」「ガザ回廊」の2本のドキュメンタリーが上映され、「パレスチナ問題とロードマップ」と題して重信メイさんの講演が行われた。

暫定滑走路の延伸許可すな！ 10・12三里塚全国闘争決起

敷地内で闘う秋原進さんからは、東峰神社裁判の報告と支援の訴えがなされ、暫定滑走路の騒音とジェットプラストの被害の中で闘い抜く市東孝雄さんからは「一時が万事、許さない」とばかりだが私は大地に腰を据えて、攻撃に立ち向かい、全国全世界の労働者と連帯して闘い抜く」と闘魂あふれる決意表明がなされた。

10・12三里塚全国総決起集会が東峰の反対同盟所有地1200名の結集をもつて勝ち取られた。基調報告では北原敏治氏が、38年間の地平を正義の闘いと振り返り、反対同盟は三里塚を反戦の場として未来のために闘い抜くことを宣言を述べた。3月の全国集会に参加した米国「ANSWER」からは「三里塚農民の不屈の闘志と闘いを継続してきた力は私たちに鼓舞・激励している。私たちは10月25日にワシントンで全国的な反戦行動を計画している。戦争動員に反対し国際連帯を勝ち取る。日本とアメリカの人民連帯万歳」との力強い連帯メッセージが寄せられた。

反弾圧闘争・共謀罪阻止 迷惑防止条例改悪弾劾

9月12日、第28回9・14反弾圧闘争が内幸町ホールにおいて180名の結集をもって勝ち取られた。全国から結集した闘争闘争の力強い挨拶をはじめ、反弾圧闘争の決意表明がなされた。質疑意見、連帯、新橋から霞ヶ関を経て山下幸夫弁護士。さらに10月5日には、共同行動として久々の山手線全駅一斉閉鎖を、打ち破れ！

共謀罪、止める！戦争への道」と題した7月に続く第2弾の講演集会が170名の結集で行われた。講演は取材は除外としているが、その基準を決めるのは警察なのだ。進行する治安体制構築を暴き、打ち破れ！

9月13日、反WTOの闘いに向けてチアパスより全世界へ発信されたメッセージ。2003年9月13日、ネオリベリズムに反対するグローバル行動に参加しているメキシコそして世界中の兄弟姉妹たち。サパティスタ民族解放軍の男たち、女たち、子供たちと老人たちの心からの挨拶を送ります。死と破壊のグローバル化に抵抗する私たちのグローバルな行動は、今日カンクンにおいて素晴らしい動きを起しています。金の奴隷である一握りの輩たちが、甘い汁を吸うために犯罪的なグローバル化を進めるための話し合いをしています。彼らと私たちの違いは財布の中身ではない。もっとも彼らの財布には金がつまっています。私たちの財布は希望であふれている。そう、違いは私たちが心で抱えている。私たちの心には明日を築くという思いがある。でも彼らには永遠に繰り返される過去がある。私たちは生命があるが、彼らには死がある。私たちは人類のために闘うが、彼らはネオリベリズムのために闘う。私たちは自由を望むが、彼らは私たちに奴隷にしようとする。我こそ地球の持ち主と自負する連中が、自分の計画を実現するために高い壁に囲まれ、哀れな治安軍の後でそこを歩くのは前にもあったことだ。世界を支配しようとする多国籍企業は（つまり支配とは破壊することだが）、自分たちの恐れと同じくらいでかい安全保障のシステムのもとに群がっている。権力者たちが未来の戦争と覇権を企むことを、以前なら見えなかったところでも知れないが、今はカンクンに結集した人々が、自分たちの未来を、民主主義、自由、正義のある世界を、

「私たちに希望がある」
サパティスタ・マルコス副司令官のメッセージ

関東大震災朝鮮人虐殺80周年 9・21-26集会を勝ち取る

役の眞民子（シン・ミンジ）さん（虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会）のお話を聞いて討論・交流。最後に例年追悼式が行われる荒川土手を歩いた。26日には、墨田文化センターで善徳相（カン・トクサン）氏の講演集会が80名の参加で行われた。朝鮮人虐殺の事実を徹底して検証してきた氏の提起は、歴史の風化に抗し、今日の排外主義運動と「自警団」奨励をはじめとした治安都市づくりを批判する上でも傾聴に値するものであった。



イスラエル大使館への抗議行動（9月27日）



三里塚全国集会（10月12日）